

発行
2022
11/30

公民館報 まつもと



第50回神林ふれあい文化祭

防災体制にデジタル活用

災害時には迅速かつ正確な情報を求められます。里山辺の北小松町会は非常時に備え、情報通信技術の活用を始めています。

安否確認の課題

松本市里山辺地区の北小松町会は、703世帯1596人が暮らす比較的大きな町会です。

町会にも、いざという時のための防災組織があり、やはり課題のひとつは有事のときの安否確認。8〜20軒で構成される隣組は54班ありますが、有事のときに対面での安否確認は膨大な時間が掛かります。また在宅せず外出などしていた場合には、対面での安否確認は出来ません。

デジタル活用

町会では防災体制の課題を解決するため検討を続けた結果、保護司・消防士などから情報通信技術の活用のアイデアが出されました。

松本大学防災研究所や、シバー人材センターのシニアパソコン教室とも連携して、災害から命を守る隣組単位のきめ細かな防災システムづくりを計画しました。



北小松町会ホームページ 動画が流れます

始まった運用

委員会では3年計画の初年度にあたる今年、まず隣組班長単位で、災害時の安否確認用のLINEの運用を始めました。

ホームページを開設し、時には町会に関する連絡事項



分かりやすいスマホ画面

令和4年度には、デジタル技術を活用して隣組単位のきめ細かな防災システムづくりのために、防災士や防災部長、デジタル化委員などで成る、北小松防災力向上委員会を立ち上げました。

また情報通信技術を使用する環境に無い方などの連絡漏れを防ぐため、当面町会の連絡などは今まで通りの紙ベースと、情報通信技術を使用する方のLINEやホームページとの、二本立てで行うこととしました。

デジタル活用

情報通信技術になじんで端末の取り扱いを可能にするため、定期的なスマホ教室なども開催していますが「委員会を組織したそもその目的は、情報通信技術を使うことではなく、災害時に一人の犠牲者も出さないことが、もっとも大切なことです」とは、北小松防災力向上委員会の丸山委員長をはじめ全役員の皆さんの思いです。

電話でお金はすべてサギだまされないで!

緊急事態です

皆さんは公民館入口にあるピンクの看板にお気づきでしょうか?お住まいの地区で実際にあった、詐欺電話の内容が書かれています。「保険料の過払い金を還付します」「年金を返します」など、公的機関を名乗る手口が多いそうです。

特殊詐欺の手口の9割は電話によるもので、特に70歳以上の女性が被害に遭う例が後を絶ちません。

松本警察署生活安全第一課、米山警部補によれば「管内でも9月30日現在で20件・被害額は5581万円と昨年に比べ急増しています」とのことです。

騙されなかつて

深刻な事態に警察と行政が連携して手を打っています。松本警察署では、前出の具



グッズも活用しよう

被害に遭わない工夫

急増している被害は、最終的には私たちが自分自身で防ぐことが必要です。いざとなったら冷静さを取り戻すのは大変なことですが、留守番電話の使用が導入しやすく、効果があるそうです。

他にも電話を一旦切り、正規の連絡先に確認し直す。飼いや犬の名前などで合言葉を決め確認する。特殊詐欺の出前講座を利用する、などが挙げられます。

公民館の掲示 都度書き換えています

10月5日この地域に詐欺の犯人から電話がかかってきています。

心の際に付け込む特殊詐欺、お互いの注意で被害を防ぎたいものです。

視点

⑨ 音楽を楽しむ
仲間と楽しむのソロソニー
ミュージックトイズ

中高生ジャズバンド

ミュージックトイズは、中学生と高校生によるジャズバンドです。Mウイングを拠点に活動しています。松本市内外の学校から集まったメンバーは、小5から中2まで下級生が所属する「キッズ×キッズ」を合わせて、約50人に上ります。現在は、地区のイベントへの出演やクリスマスコンサートに向けて、週1回程度のペースで練習を行っています。

音楽を楽しむ経験

2005年に後藤浩輔さんがミュージックトイズを立ち上げました。当時楽器店に勤めていた後藤さんは、高校進学に合わせて音楽をやめてしまいう生徒が多いことに、何とかしたいと考えていました。



練習風景、後藤さんの熱い指導

楽しむ経験を通して、音楽が続けられるように、少人数で自由に演奏できるジャズを取り入れ、良いところは褒めて悪いところは一緒に考えるなど指導法を工夫しました。これまでに県内外のイベントや全国ジャズフェスティバルで演奏を披露しました。

仲間UNIONの色

後藤さんはミュージックトイズを通して「みんなで助け合って取組む体験をしてほしい」と願います。メンバーの柳澤咲希さん(高2)は「学校や学年を越えて交流できることがミュージックトイズの魅力」と話し、練習からメンバーで楽譜を囲み、活発に意見が交わされます。

次の演奏の舞台は、12月25日にMウイングで開催されるクリスマスコンサートです。仲間とつくり上げる唯一無二の音色が、これからも多くの人に感動を与えます。



仲間と話し、一緒に演奏を完成させる

取材風景は
こちらから♪



写真でつづる
まつもと今昔⑥0

～ 入山辺 柴宮神社前
軍馬記念碑 ～



(撮影:1952年)

写真提供:入山辺地区西桐原公民館

日露戦争以降、戦場に出た軍馬のために慰霊碑や記念碑が各地に作られました。碑には明治三十六年十二月と刻まれています。



(撮影:2022年10月29日)

木々も茂り遠くが見通せなくなりました。道路整備の際に土が入れられたことが、石碑の台座の高さからうかがえます。

おこひる

今年も実りの秋が訪れた。春に植えた稲が秋になりこがねの穂を垂らし刈る時を今か今かと待っている▼機械が進む前は家族や親戚で稲刈りやはず掛けを行っていた。そんな農作業の合間に、お母さんたちが用意してくれたおこひるをみんなで土手に座って、何気ない会話を楽しみながら食べるのが楽しみであった。そして、英気を養って、また作業に取り掛かる。しかし、今は機械化が進み、稲刈りと同時にもみにして袋へ入れて保存してしまうことがほとんどである。おこひるを食べている間もないほどである▼お宮は秋祭りの真つ最中である。感染症が広がる前までは稚児たちは白拍子に合わせて舞を奉納する。境内の中には沢山の出店が並び子どもたちはどの出店にしようか友達と一緒に楽しそうに選んでいた。自宅ではお祝いしようかと親戚が集まり楽しく食事をしながら会話を楽しんでいた▼今は、感染症と共存しながら行動することが求められる。気兼ねなく行動ができる日が来ることを願っている。

歴史探訪 探ろう松本 31

一番新しい松本の地区 松原地区

生まれて30年ほど、祭りも行事も若々しい歴史です。人口2,966人、世帯数1,239世帯で7つの町会があります。

松原地区誕生の歴史

松本市の東南部に位置し、面積は45ヘクタールのコンパクトな地区です。「松原」の名は、松林に覆われた土地を切り開いたことに由来します。

昭和53年から土地の整備が始まり、62年には300世帯の住宅が建てられました。翌年の63年に寿地区の白川町会から分町し、松原町会が発足しました。そして平成15年に地区として独立しました。

「から始めの町」

全ての住民が他の地区から移り住んでいるため、住人同士の絆をいかに作り、深めるかという課題に、当初から取り組んできました。例えば、住民の町会対抗運動会も、より参加しやすく、楽しめるようにと、少しずつ内容を変えて、現在は「ウルトラゲーム大会」となっています。

また、平成5年からは住民のふれあいを創造する場とし



模擬店を楽しむ「いづら祭」

て「いづら祭」を毎年7月に開催しています。住民が工夫を凝らした模擬店を出店し、食べ物や小物を販売します。中学生が準備や模擬店の販売、放送係の手伝いをしてくれるなど、老若男女が集う機会となりました。

地元有志の輪

地区の中心に松原モールがあります。モールの中核部には「からくり仕掛けの時計台」が立ち、松原地区の宝として住民を見守っています。



秋晴れのからくり時計

平成10年、火災で時計台が焼けてしまいました。

当初、時計台を修復しようとして「ミセス8」と呼ばれる8人の女性たちが立ち上がり、一部は修理できましたが、まだ大きな費用が必要でした。

その後平成30年に、松原モールの再活用を通じて地区の活性化をはかる「松原モールぶろじえくと」が立ち上げられました。また、それと歩調を合わせるように、単独で活性化や美化活動をしてきた有志たちの連携が広がりました。

すると、その流れで時計台の修復の機運が自然と高まりました。有志の中には、電気や工芸の専門家もいて、結果、お金をかけずに時計台を直すことができました。

松原モールの再活用など、住民の交流や地域の活性化に不断の努力をしている松原地区のこれからは楽しみです。

松本平の野鳥たち

カケス (2021.10 アルプス公園 写真提供:信州野鳥の会)

全長33cm。腰の白色部や翼の一部に青色・白色の細かい縞部分が良く目立つ。ふわふわとゆっくり飛ぶ。松本平の里山では普通に見かける鳥。カラスの仲間で鳴声はジャーとしわがれた声。他の鳥の鳴き声などの物まねが上手。

表紙について 松本蟻ヶ崎高校書道部 パフォーマンス

第50回神林ふれあい文化祭が10月16日(日) 神林公民館、福祉ひろば、体育館で開催されました。ステージ発表前のオープニングセレモニーで、音楽と踊りと書道が一体化したすばらしいパフォーマンスが披露されました。

(撮影 2022.10.16 神林体育館)

◆◆◆高綱中学校 若鷹祭◆◆◆



感染症対策のため、関係者のみでの開催となりました。



◆◆◆松島中学校 つくも祭◆◆◆

◆◆◆島立中央保育園◆◆◆



島立中央保育園の園児は元気よく運動会の練習をしていました。堀米保育園の運動会では園児の姿を保護者が温かく見守っていました。



◆◆◆堀米保育園◆◆◆



令和4年11月1日現在	
世帯数	2,911世帯
男	3,276人
女	3,412人
総人口	6,688人

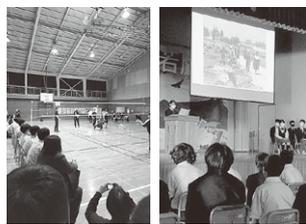
さわやかな秋晴れの10月1日、母校「高綱中学校」の創立70周年記念式典が行われ、島立地区の同窓会員として参列いたしました。思えば、校歌が披露され、プールも完成した10周年は中学2年生の時でした。あれから60年もの歳月が流れて、自分がこの場にいることが不思議な感覚でした。式典では70年の歴史の振り返りとして、開校時や、校舎が火事で焼失して和田校で奮闘していた当時の作文(生徒会誌「高綱」より)が、現在の高綱中生6名の皆さんの朗読によって、写真映像と共に披露されました。その時々々の同窓生の想いが心に響き、胸が熱くなりました。

記念講演では、長野県に縁があり、バレーボール日本代表やVリーグで活躍された浅野博亮氏、山本憲吾氏のお二人から、高綱中のバレーボール部員との実践を通して、技

高綱中学校創立70周年記念式典 上條貴志子

体育館に掲げられている額の「自由・之人・必負・責任」の文字は、懐かしさと共に自分の人生への問いかけでもあります。当時、毎週行われていた全校朝会。威厳のある興校長。長い歳月が一気にもどると共に、着実に歴史を重ねてこられた母校「高綱中学校」に心から感謝を申しあげる思いです。

これからも大空に向かって大きく羽ばたく若鷹の皆さんにエールを送りつつ、高綱中学校のより一層のご発展をお祈りいたします。



そば畑と松本IC



収穫

術的なことや、バレーボールの魅力を学びました。そして参加者参加型講演の楽しいトークの中から、「目標を持ち、自分を信じて、どんどん挑戦しよう!」と、高綱中生に向けての初心を忘れないこと!

【大会結果】

卓球 第3位
ゲートボール 第4位
マレットゴルフ 第13位

また、10月30日(日)には第39回松本市市長杯争奪球技大会が開催され、島立地区代表選手団が健闘しました。

出場された選手の方々と、大変お疲れさまでした。

【大会結果】

卓球 優勝
ゲートボール男子の部 第3位
ソフトバレー 39歳以下 第3位
ソフトバレー 40歳以上 第4位
マレットゴルフ男子の部 第4位
マレットゴルフ女子の部 第4位

優勝第3位第4位
優第3第4第

10月9日(日)、第65回松本市市民スポーツ大会秋季大会が、松本市総合体育館他で開催され、島立地区の代表選手団が好成績を収めました。

島立地区選手団 大健闘!!

ハロウィン運動会を開催



10月24日(月)、島立つどいの広場でハロウィン運動会が開催されました。島立つどいの広場は、未就園児と保護者が気軽に集い、情報交換や交流できる場として島立児童センターが実施している事業です。子育て支援員による相談や親子体操、季節の行事などを行っています。

ハロウィン運動会では約20組の親子が参加し、障害物競走や、カボチャに見立てた大玉を送る「カボチャ送り」など、ハロウィンにちなんだ競技を楽しみました。

参加者も様々な仮装をして参加し、お互いの装いも楽しめる運動会となりました。



中秋の名月

島立つ子森・杜探険隊 かまばの森で自然体験

10月23日(日)、島立つ子森・杜探険隊が中山地区にある「かまばの森」で自然体験学習を行い、親子連れ約20人が参加しました。

そちらを活動拠点としている「かまばの森で遊ぶ会」の皆さんを講師に、竹工作、山遊び、おやつ作りを行いました。

〈竹工作〉

近くの竹林へ行き、竹の選別から切り出しまで、すべて子どもたちが協力し合って行いました。切り出した竹は、ノコギリやナイフを使いながら、器やスプーン、箸、弓矢など、創造力を高めながら思い思いの作品を作りました。



〈山遊び〉 「かまばの森」の裏山は秘密基地のように整備されていました。ロープを使って山の傾斜を登つ



たり、竹とロープのブランコで遊んだり、自由遊びを楽しみました。

〈昼食・おやつ作り〉

昼食は各自持ち寄った食材でカレーライスを作り、焚火と釜でご飯も炊きました。

出来上がったカレーライスは、自分たちが作った竹食器に盛り付け、竹スプーンで食べました。自然の中で自作の竹食器で食べるカレーライスは、また一段と違う味わいがありました。

おやつ時間は、パン生地を竹に巻き、焚火で焼いて「竹巻きパン」を作りました。



参加した小学一年生の男子児童は、「竹で弓矢を作ったことが楽しかった。」と話し、小学四年生の女子児童は「裏山遊びも楽しかったし、竹巻パンもおいしかった」と話してくれました。



秋雲

一般向け 南栗遺跡 発掘調査見学会

8月に実施した「南栗遺跡発掘調査子ども向け見学会」に続き、10月26日(水)に一般向けの発掘調査見学会が開催されました。今回も長野県埋蔵文化財センターの河西氏から説明をいただき、実際の発掘現場で作業中の様子を見学しました。

建物跡の地面は非常に硬いところがあり、「建物内の生活動線が一番踏み固められた場所ではないか」とのお話しに、参加者は領きながら実際に地面を触って確かめています。お墓の跡で棺があった



発掘調査の概要を聞く参加者



いざ発掘調査現場へ



出土している土器を見学



出土した土器を触らせていただきました



作業の様子



地面の硬さを確かめました



栗



蜻蛉

堀米公民館 ニュースポーツ体験会

11月6日(日)、堀米公民館でニュースポーツ体験会が開催されました。堀米公民館では年に数回、各種スポーツを体験する企画を実施しており、この日はニュースポーツの「ポッチャ」と「ラダーゲッター」が行われました。

約10人が参加し、和やかにニュースポーツを楽しみました。

